

道路液状化ハザードマップの高度化

東日本大震災や熊本地震では、液状化に伴う道路の地盤沈下や橋梁部での段差被害により、道路が緊急輸送道路や避難経路として十分に役割を果たせなかった状況にありました。

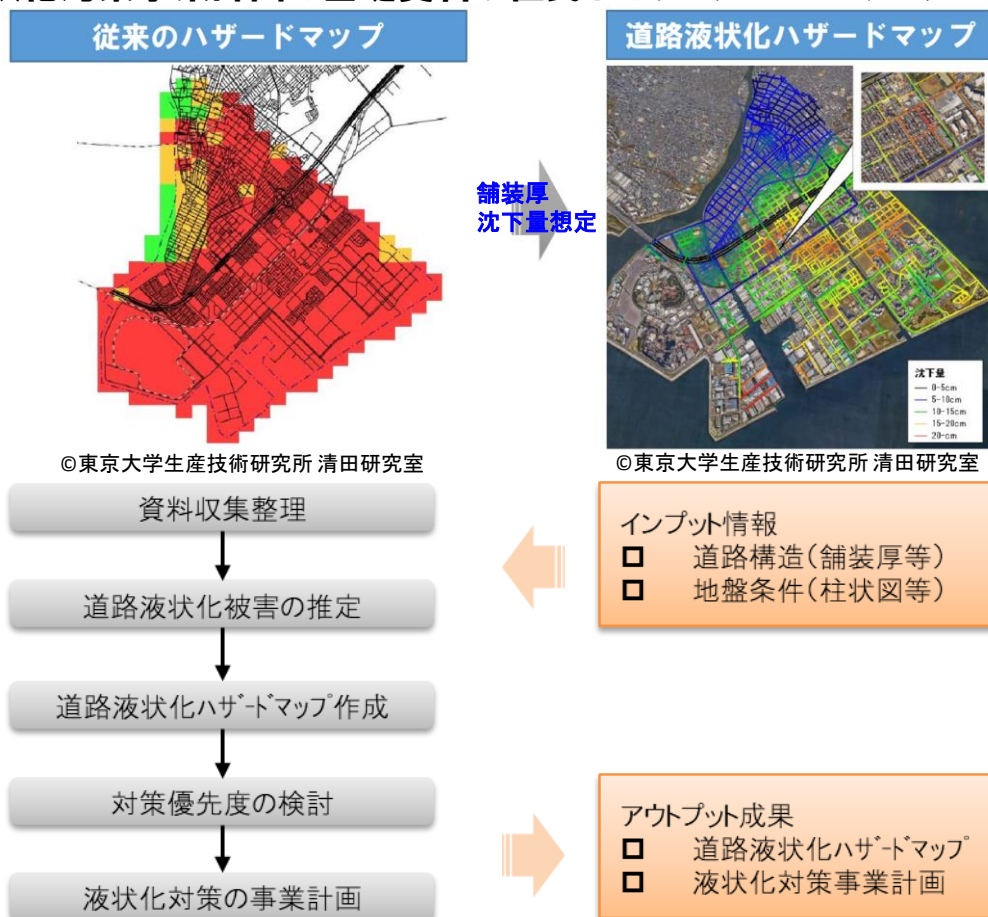
課題

従来のハザードマップは、液状化発生の危険度をエリアで示したものが多く、道路の具体的な被害箇所と被害規模の把握するには情報が不足しており、道路液状化対策の計画・事業化が困難な資料となっている。

提案

過去の液状化被害事例から導いた『道路液状化被害推定手法』をもちいて道路液状化ハザードマップを作成。

道路の液状化対策事業計画の基礎資料や住民とのリスクコミュニケーションに活用可能。



お問い合わせ